

# 令和6年能登半島地震の被災地の状況等について（兵庫県社会福祉協議会）

能登半島地震について、今後長期間にわたる支援が必要と見込まれる中、近畿ブロック府県・指定都市社協（幹事：兵庫県社協）では、組織・職員への継続的な支援に向けた情報収集、災害ボランティアのニーズ把握のため、現地へ先遣隊を派遣

## 1 先遣隊の派遣概要

- 1月13日（土）石川県社協を訪問
- 1月14日（日）珠洲市社協、穴水町社協を訪問
- 1月15日（月）内灘町社協を訪問

## 2 現地社協ヒアリング結果（被災地の状況・課題等）

### （1）石川県社協ヒアリング

- ・道路や上下水道などインフラ復旧の時期が不明
- ・道路状況や水道設備の改善、宿舎の確保ができないと一般ボランティアの募集は当面困難
- ・これから豪雪時期に入ることもあり、安全確保がますます困難な時期になる
- ・奥能登地域の社協職員全員が被災している状況で、職員のサポート、機能回復のための支援が急務
- ・珠洲市や輪島市では住家被害が大きく作業系ボランティアよりも避難所運営支援や被災者への寄り添い（こころのケア等）が一層求められる
- ・他の府県とは異なり、災害ボランティアに関する総合調整や運営支援は県が主導



（1/13 石川県社協での情報収集）

### （2）珠洲市社協ヒアリング

- ・市と社協間の情報共有が難しい状況にある
- ・職員70名は全員被災者。介護事業も含め数人しか出勤できていない
- ・事務局長と主事の2名で情報収集、住民の安否確認などの災害対応業務を実施（他の職員は介護事業に従事）
- ・情報収集などは県外の災害NPOが支援している
- ・災害ボランティアセンターは開設しているが実際は準備できていない状況
- ・社協機能の維持が先決（職員ケア、人員補給）
- ・路面状況、通信環境、電気、上下水道が復旧しなければ災害ボランティアの募集は困難
- ・市域全域には、道路の段差や崩落、降雪によりスタックするなどの事故が多発しており、支援するNPOも救助される事例がある
- ・県外からの災害NPOが能動的に連携体制を持ち支援連携

### (3) 穴水町社協ヒアリング

- ・上下水道は復旧していない
- ・図書館を含む複合施設内に入所する社協には避難所が開設されており、避難所運営の支援には災害NPOが常駐してバックアップ
- ・当該施設は炊き出し拠点となっており、自宅避難者への食事が届けられている

### (4) 内灘町社協ヒアリング

- ・液状化による住家被害が甚大で、多くの被災者は自宅に戻れていないので、住民からのニーズは不明
- ・町役場と社協間の情報共有が難しい状況にある
- ・町からの依頼により町内中心に募集したボランティアに避難所支援、救援物資の仕分け等を行ってもらっている

### 3 今後の支援の必要性等

#### (1) 組織・職員への継続的な支援

- ・特に奥能登地域は、市町社協、行政などの職員も大半が被災者であり、各機関の機能維持と体制確保の応援が必要
- ・自治体と社協間の連携調整機能の整備

#### (2) 災害ボランティアの活動支援

- ・現状ではライフラインの復旧など応急業務が優先であり、これから豪雪時期に入るため、ボランティアの安全確保も踏まえると、特に能登方面では一般ボランティアが支援できる環境にはまだないが、現地の状況から長期間にわたる支援が必要
- ・避難者は避難生活の環境が厳しく将来への不安感を抱えている方が多い。その気持ちを受けとめる活動（炊き出しや寄り添い、傾聴活動など）が復旧期においても必要と考えられる
- ・現地へボランティアに行くには、降雪地域での車の運転経験や食料や宿泊場所等を自前で調達するなど被災地域に負担を掛けずに活動ができるなど、災害時におけるボランティアに関する高度な経験値が必要